



## 思いやりの心をもって

校長 泉崎 春海

小竹小学校の広い校庭の上を、ツバメが盛んに飛び交う季節になりました。「小竹の森」がある小竹小学校の豊かな自然を感じます。

先日、1，2年生の生活科の授業で、学校探検がありました。2年生は、去年、自分自身が2年生に学校を案内してもらったことを思い出して準備をしました。学校内の各部屋に案内図（絵と説明）を貼り、各部屋の説明ができるように何度も練習していました。

そして当日。この1年間でずいぶんお兄さん、お姉さんになった2年生が、グループごとに1年生を連れて学校内を案内しました。「この部屋は校長室です。校長先生がお仕事をしています。」など、部屋ごとに一生懸命、詳しく優しく教える2年生と、それをしっかり聞く1年生の姿がありました。

今回の生活科の授業で2年生が1年生に優しく教えたように、6年生は、入学したばかりの時から1年生のお世話をしてくれています。初めて、1年生が朝礼で並ぶ時には、並び方が分からず迷っている1年生に、並ぶ場所や並び方をしっかり教えた後、自分たちの場所へ移動していました。上級生が下級生の面倒を進んで見てくれる。そんな優しい姿は、小竹小学校の日常によく見られる光景です。

子供たちは、目の前にいる小さい子供や、自分より弱い者には、優しい心、思いやりの心をもって接することができる人が多いです。

しかし、同学年などでは、ややもすると、「自分が一番」「自分がやりたいから」など、我が儘な心が出てきます。休み時間、ボールを一人じめしたり、みんなで決めたルールを破って自分勝手なルールに変更したり…。日常では、こんなことで起こるけんかもあります。

「自分の気持ち」は、自分が一番分かります。でも、周りにいる人たちにも自分と同じように「自分の気持ち」があるのです。だから、自分の気持ちを優先してよい時と、周りの人の気持ちを考え、それを思いやって行動しなければならない時があります。

異学年での交流は、「相手の気持ちを考えて、思いやりの心をもって行動する」気持ちを育てる上でとても大切な役割を果たしています。自分より小さい学年には優しくするという気持ちをもっと大きく広げ、人の気持ちも考えて接するきっかけづくりという大きな意味があります。

小竹小学校では、4月から地域やPTAの皆様によるあいさつ運動がありました。この運動は、あいさつ推進の意味もありますが、子供たちが安全に登校してほしいという地域、保護者の方々のあつい思いがあります。小竹小学校の子供たちが、こうした方々の思いも分かるような人に育ってほしいと強く願っています。